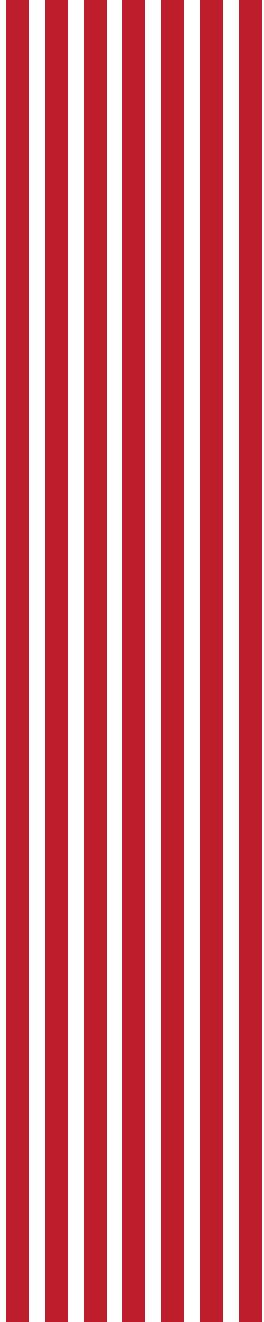


COMMUNITY DEVELOPMENT AROUND URAWA STATION

浦和駅周辺
まちづくり
ビジョン



**COMMUNITY DEVELOPMENT
AROUND URAWA STATION**

浦和駅周辺
まちづくり
ビジョン



はじめに

浦和駅周辺のまちは、古くは中山道の宿場町として賑わい、浦和絵描きに代表される文化芸術が栄え、県庁や裁判所などの主要官公庁が集中するほか、埼玉会館や県立近代美術館が立地するなど、埼玉県の行政・文化の中核地として発展してきた歴史があります。近年では、市街地再開発事業など総合的なまちづくりを進め、商業、行政機能や市民交流機能の充実を図ってきました。

本市では、市民一人ひとりが更なるしあわせを実感できる都市として、総合振興計画の将来都市像「上質な生活都市」と「東日本の中核都市」を目指しており、浦和駅周辺のまちは更なる成長を遂げ、本市を支える都心の一つとして、将来にわたって持続可能なまちとなる必要があります。

そのためには、世界を見据えて浦和の個性を更に磨き、まちづくりへ生かすことや経済のグローバル化、技術革新の進展や市民ニーズの多様化などの変化に柔軟に対応するために、市民協働・公民連携でまちづくりに取り組むことが、より一層重要となっています。

そこで、様々な機会を通して多くの方々の浦和への想いに触れ、「県都」や「文教都市」として成熟した魅力とともに、人生100年時代の生涯を通じて幸せを感じられるように、浦和のまちとひとが成長し続けるための将来像を共有する指針として「浦和駅周辺まちづくりビジョン」を策定しました。

本ビジョンの実現には、引き続き、地域住民、事業者、まちづくり団体など様々な皆様と共にまちづくりに取り組んでいくことが必要不可欠です。より一層のご協力とご支援をお願いいたします。

最後に、有識者懇話会、意見交換会、ワークショップなどを通じて貴重なご意見やご提案をいただき、ビジョン策定に関わっていただいた多くの皆様、多大なるご尽力をいただきました「(仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会」の委員の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和5年2月

さいたま市長 清山勇人

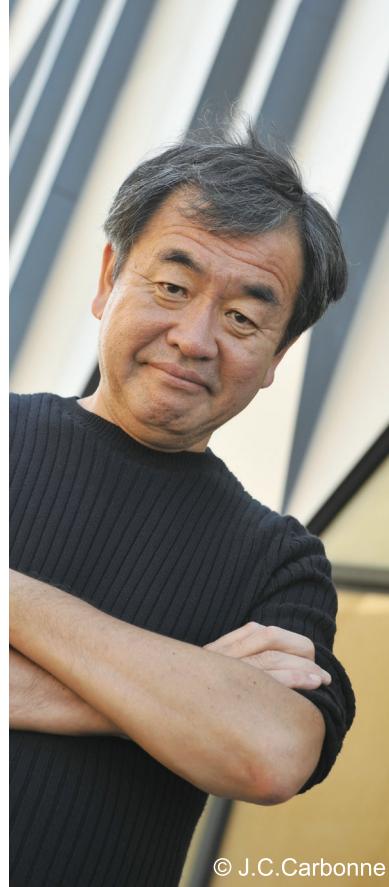
浦和の街の将来

浦和の街の将来について、市民と語り合い、専門家とディスカッションを重ね、僕が浦和の街を歩きながら漠然と感じていたことが、ひとつ確信となるのを感じた。

それは浦和がコロナ後の新しいライフスタイル、新しい暮らし方のリーダーとなりモデルとなれる場所だという確信である。

コロナ以前の都政モデルの基本は、都心の超高層に郊外から通勤するというライフスタイルであった。このモデルが、いかに人間の心と身体に大きなストレスを与え、地球環境にダメージを与えていたかを、コロナがわれわれに教えてくれた。それに代わるモデルは、都心対郊外という二項対立を超えた、ヒューマンで、ウォーカブルで多様性に富んだ街である。

浦和には、そんな街になるための資質が備わっている。単に資質が備わっているだけではなく、市民の皆さんが浦和という場所を愛し、この街に誇りを持っていることを強く感じた。街づくりの基本は、その愛と誇りである。市民の皆さんと力を合わせて、この浦和という特別な場所を守り、みがいていきたいと願っている。



© J.C.Carbonne

A large, handwritten signature in black ink, written in a cursive style. The characters appear to be "浦和の街の将来" (The Future of the City of Saitama).

ごあいさつ

はじめに／清水勇人市長 挨拶	2
浦和の街の将来／隈研吾氏 寄稿	3

1 ビジョンについて

I ビジョン策定の背景・目的	8
II ビジョンの目標年次	9
III ビジョンの位置付け	9
IV ビジョンの対象範囲	10
V ビジョンの構成	11

2 浦和駅周辺の果たすべき役割

I 浦和駅周辺地区の位置付け・役割	14
II まちの将来展望	17

3 浦和の宝

I 浦和のまちの歴史	26
II 浦和のまちの特長	27
III 浦和のまちの宝	36

4 浦和のまちの将来像

I	基本理念	40
II	将来像	42
III	将来像のコンセプト	43
IV	将来の生活シーン	52

5 まちづくりの展開

I	まちづくり方針	58
II	まちづくりの展開	59

6 まちの将来像の実現に向けて

I	ひと中心の都市デザインの考え方	70
II	アクションプランの検討	73

7 資料編

I	参考資料	76
II	ビジョンの策定経過	92
III	用語解説	96

